

## さらだたまこ 著作 プレスリリース



### パラサイトシングル

30歳独身。実家で両親と同居中。  
今のところ結婚の予定なし。  
仕事にやりがいを感じているし、恋人もいる。  
でも、今の現状には満足できない。  
もっと、キャリアアップをと思う気持ちががはやる。  
で、生活の実態は？ お母さんがお嫁さん！？  
このままじゃいけないってヤバイ感はあるけれど、  
つつい居心地よくって...。  
それってやっぱりヘンかもしれないけど...。  
こういう生き方も、私たちのひとつの選択。  
悩みなき人生はない。  
迷路を彷徨いながら、突破口を見つけたい。  
そんな、やどりぎ非婚族たちの本音と理由を  
著者と等身大の女性たちにぶつけたルポ。

WAVE出版  
1998年

著者より一言。

パラサイトとは寄生の意味。社会人となっても親元で同居する独身たちをパラサイトシングルと呼んだ。バブル時代の申し子なる社会現象として注目され、流行語ともなった言葉だが、もともと社会学者の山田昌弘氏が命名した造語で、ニート、ひきこもり、格差社会を産む関連用語として認識されている。もっとも本書では、キャリアアップや結婚・出産という人生のライフステージのはざままで揺れる30代独身女性の心情に限定して、今はまだパラサイトする具体的なライフスタイルの実情を綴った。果たして、パラサイトすることは、単純にネガティブに批判すべきことなのだろうか？ 逆境をバネに、大きなステップを模索する過程において、しなやかに生きる選択しとして捉えたら、それほど肩身の狭いものではないはず。